# 令和7年度〔 自己評価報告書 〕

| 学校番号 | 学 校 名 | 校 長 名 |
|---|---|---|
| 27 | 川崎市立東小倉小学校 | 安藤 勉 |

| 学 校 教 育 目 標 | 今年度の重点目標 |
|---|---|
| 東小倉という町に愛着をもち、誰もが明日も登校したくなる学校の創造。<br><br>○健康でたくましい子<br>○自ら学び行動する子<br>○心豊かなあかるい子<br>○進んで働く子<br>○世界に目を向ける子<br><br>**・教職員の組織的協力による教育活動**<br>**・魅力的な教育課程の編成**<br>**・他と意欲的にかかわり合う力の育成**<br>**・自己肯定感と規範意識の育成**<br>**・地域の教育力を生かした教育活動の実現** | ○学校教育目標の実現に向けて、「進んで伝え、思いを受け止め、豊かにかかわり合う」資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに努める。<br>○「聴いて考えてつなげる」授業を継続して行い、その基盤となる対話の力を育てる。<br>○学校スタンダードについて教員が共通認識をもち児童指導を行い児童が自ら考える活動を重視することで規範意識の育成を図る。<br>○自分や人のよさ、違いを互いに認め合い大切にしようとする気持ちを育てる。<br>○情報モラルと道徳教育を推進する。<br>○児童会活動をはじめ、学級での係活動や当番活動をする喜びを感じさせ、自主的・自発的な行動力を養う。<br>○児童会や縦割り班活動を計画的に行い、機能をより有効に生かす。委員会で児童主体の計画を実現していく。<br>○自分の身体に関心をもち、健康な体づくりができるようにする。<br>○学校生活全般において、児童の体力の向上へとつながるきっかけを作り、体を動かすことの楽しさや喜びを感じることができるようにする。<br>○避難の仕方を理解し、状況に応じて身の安全を守る判断ができるようにする。 |

| | 評 価 項 目 | 具 体 的 な 取 組 | 成 果 と 課 題 | 具 体 的 な 改 善 策 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○自ら学び行動する子<br>・学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力の育成<br>・自己評価力の育成 | ①国語科のグランドデザイン・各学年のグランドデザインを作成し児童の実態に沿った効果的な教育活動を行う。<br>②全教科を通じて、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした「聴いて考えてつなげる」授業を行う。 | ○ことたまでの異学年交流について<br>・実際に見ることで子供達のイメージも湧きやすかった<br>・上級生・下級生ともに見てもらうことで意識も高まった<br>・1年後のイメージをもてるような意識付けをしてから見に行く<br>▲語彙力を高めるための活動が難しい<br>▲国語としてのグランドデザインをどこまで求めていくか<br>▲1年生から6年生まで並べてみて、縦のつながりを意識していく | ○語彙力について<br>・やり取りで増やしていく<br>・語彙を増やすためのアプローチを行う（人物像や表現など）<br>○グランドデザインについて<br>・学年会での話題に入れていく<br>・具体性のあるものにするため年間を通して具体的にしていく |
| 2 | ○心豊かな明るい子<br>・規範意識の向上<br>・自他を大切にする心情や態度の育成 | ①児童に自ら考えさせる ことを繰り返すことで 相手の気持ちや状況を考え、判断して行動できる力を育てていく。<br>②各教科や様々な活動を 通し、相手を思いやる言葉かけや行動を認め価値付けていく。<br>③家庭との共通理解を図るために、保護者への啓発活動を継続的に推進していく。 | ○部会の進め方を改善できた。<br>▲学年だけでなく学校として具体的な部分の話をできたらと思う。<br>○生活目標同士をつなげて話す良さが児童から見られたため教員も意識していきたい。<br>▲生活目標の見直しを年度末に教員で行っていく必要がある。<br>○教員も個性があり、交換授業や他の担任からの価値付けの声など、個で見るのではなくチームで見るのを継続。<br>▲SNSトラブルよりもクロムの使い方が悪い部分があった。 | ・まず教員が他の学年を気にしていくところからはじめられるとよい。（廊下を通ってみるなど）<br>・チームで見ていくことについては次年度も継続をしていきたい<br>・クロムブックの使い方については、引き続き指導を行う。低学年のうちから声かけをしていく。 |
| 3 | ○進んで働く子<br>・特別活動の充実<br>・意欲的に協働する力の育成 | ①児童会スローガンをもとに各行事で学年・学級の目指す児童の姿を具体化していく。<br>②教員主導ではなく、児童の主体的な活動を推進するために学びの場を確保する。<br>③すべての教育活動を通して児童が自分事として受け止め実践できるよう、全職員が一体となり協働する力を価値付けていく。 | ○低学年を中心に委員会のイベント参加への呼びかけを担任からも積極的に行い、参加児童数も増え、モチベーションを高めるきっかけとなった。<br>○計画委員会のあり方を変えたことで、代表委員の運営に集中ができ、集まる日も絞ることができた。<br>▲イベントの内容の重なり調整<br>▲新年度委員会の立ち上げ方法<br>▲代表委員会から各委員会への情報の伝え方<br>▲児童の負担軽減のために活動内容を修正改善 | ・教員の意識。各委員会担当同士による調整相談、高学年の動きの確認（忙しさ等）<br>・各委員長の指導を丁寧に行う。立ち上げも各委員長の報告から始める。5年生に引き継ぐ時は委員長から。（12月頃を目標に行う）<br>・「主体的」を大切にしながらも、委員会活動の時間を有効に使えるように活動内容を厳選したり見直したりしていく。 |
| 4 | ○健康でたくましい子<br>・教科体育の充実と魅力的な体育活動の充実<br>・健康教育の充実 | ①年度初め（6月頃～）に、栄養教諭、養護教諭と食育や健康に関する授業の年間計画を立て、確実に行えるようにする。<br>②体力UP委員会の活動のなかで児童が参加できるような環境をつくっていく。<br>②体育専科と連携を図り、児童にとって魅力的な学習を進めていく。<br>③防災安全マニュアルを全教員で共通理解を図り、いざという時に迅速にかつ的確に行動できるようにする。 | ○体力UP<br>・常時で体力をあげられるように企画を行った<br>・自分のペースで頑張れる企画でよかった<br>・運動をするきっかけになった<br>▲体力UP<br>・教員がどこまで入っていくか<br>・なにで体力がUPしたのかを測るのか<br>・運動好きを増やす方向にしていくか<br>○専科との連携<br>・交換授業で普段見られない面も見つけてもらえた<br>○食育・健康<br>・計画的に進めていった<br>○防災<br>・避難訓練部をつくり計画を立てた<br>・マニュアルに載っていることについて、改めてすり合わせを行えてよかった | ・体力UP委員会の企画での活動場所や期間を考えていく<br>・年度終わりにマニュアルの見直しを行い、精査していく<br>・教員の部会の担当について兼任できるものは兼任できるとよい |

| 学 校 関 係 者 の 評 価 | 学校運営のまとめ |
|---|---|
| ●児童の主体的な地域への関わりついて<br>・児童が学校運営協議会に参加し、地域と連携して総合的な学習の時間で学んだことを報告していることはすばらしいものである。<br>・ジョブまるキッズに参加し、地域を盛り上げていこうとする児童の主体的な姿には感銘を受けた。<br>●保護者アンケートの結果と学校経営の重点について<br>・保護者アンケートの結果を見ると、多くの設問において肯定的な意見が得られているようである。<br>・特に、学校が重点的に取り組んでいる「聴いて考えてつなげる」授業の継続や「児童の主体的な活動」についても、保護者から高い評価が得られていることは、教育方針が家庭にも伝わっているということではないか。<br>●児童の意識と安心感の醸成について<br>・児童アンケートの結果からは、多くの児童が日々の学校生活を楽しみ、肯定的に受け止めている様子が分かる。 | 1. 安心・安全な学校環境の構築<br>●「誰もが明日も登校したくなる学校」を目指し、子供たちが安心できる環境づくりに努めた。<br>●「あいすのみ」の標語を柱に、教員・児童が共通意識をもって、互いを尊重し合える手立てを工夫した。<br>2. 地域・保護者との連携<br>●PTAや地域との連携により、多くのボランティア支援をいただいた。その結果、特色ある教育活動を展開することにつながった。<br>●学校運営協議会において、建設的なアイデアの出し合いと検討を行った。第4回の協議会には6年生児童6名が参加し、総合的な学習の時間に取り組んだことについて、学校運営協議会の委員の前で報告した。<br>3. 教育の質の向上<br>●国語の研究で積み上げてきた知見や経験を整理し、次年度以降も着実に継承・発展させていく基盤を整える。<br>●保護者から高い評価をいただいている「聴いて考えてつなげる」授業の継続や、「児童の主体的な活動」については、本校の強みとして今後も継続的に注力していきたい。 |